

## 増田桃香さんからのメッセージ



この度、歴史あるクロイツァー賞を頂き、受賞者演奏会に出演させて頂けることを大変光栄に思っています。受賞者演奏会では、ラフマニノフの第1番のソナタを演奏します。昨年、「ラフマニノフの音楽とロシア聖歌ーピアノソナタ第1番 作品28を中心としてー」というタイトルの修士論文を書いたのですが、私の中で「ロシア聖歌」というのは非常に大きな存在です。

以前からラフマニノフの宗教合唱曲である〈晩禱 作品37〉が好きで、この作品を演奏する数少ない演奏会に足を運んだりしていました。しかし決定的にその世界に「はまった」のは、

去年ロシアに初めて訪れてからです。西方教会とは違った文化を持つロシア正教会の独特で深淵な雰囲気によって圧倒され、毎日のように教会に通い、日々のお勤めを眺めたり、歌声を聴いたりして過ごしました。

完全に虜になってしまったと言えるくらい、帰国してからもその空気が自分の中に残っているように感じ、この不思議な魅力は何なのだろうと自問しつつ、論文執筆を進めました。

前置きが長くなりましたが、今回演奏するラフマニノフの1番のソナタにおいても、ロシア聖歌が感じられる印象的なフレーズが使われています。ラフマニノフがそれを意識的に作品に用いたとは断言できないのですが、ゲーテの「ファウスト」を題材に作られた宇宙的なスケールを持つこのソナタにおいて、非常に大きな役割が与えられています。この有名な文学作品にインスピレーションを得て、これだけの大曲を書いたにも関わらず、1番のソナタは2番のソナタ等に比べて全くと言ってよいほど演奏される機会はなく、未だ「難解な」作品としての認識の方が強いように感じます。演奏によって、少しでもこの作品の素晴らしさを聴いて下さる方に伝えることができれば、ラフマニノフの研究を行う者として、作曲者へのささやかな貢献になるのではと思っています。

以前からロシア人作曲家の作品を演奏することが多かったのですが、ラフマニノフの音楽を含め、「ロシア」という一つの大きなジャンルにいつのまにか魅了されるようになってから、この国の文化や音楽の魅力にもっと迫りたいと気持ちが生まれ、修士課程を修了後、博士課程に進学をしました。

演奏活動と研究を両立させることは決して容易なことではありませんが、自分を惹きつけてやまない対象を追求できることは大変幸せなことであり、険しい道でありながらも一步一步研鑽を積むことによって、自らの今後の音楽活動の大きな支えとなり、演奏そのものもより高みへと近付けるのではないかと考えています。 増田桃香



アレクサンドル・ネフスキー大修道院  
(ロシア・サンクトペテルブルグ)



カザン聖堂 (ロシア・サンクトペテルブルグ)

増田 桃香 (ますだ ももか) … 東京芸術大学

東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校、同大学を経て、同大学院音楽研究科修士課程を首席卒業、クロイツァー賞、大学院アカンサス賞受賞。現在同大学院博士後期課程在籍中。1999年第15回かながわ音楽コンクールユースピアノ部門総合第1位、2007年第23回同コンクールシニアピアノ部門総合第1位。2005年V.I.P. Academyにおいてシフラ賞受賞。2006年及び2008年、ウィーンにおいてリサイタルを開催。2008年フレッシュ・アーティスト from ヨコスカに推挙され、リサイタルを開催。第21回宝塚ベガ音楽コンクールにおいて第4位、会場審査員特別賞受賞。第7回ロシアン・ピアノスクール in 東京を受講。受講者選抜演奏会出演賞受賞。

これまでに、角野裕、角野怜子、J. デームス、G. タッキーノ、E. ポブウォツカの各氏に師事。